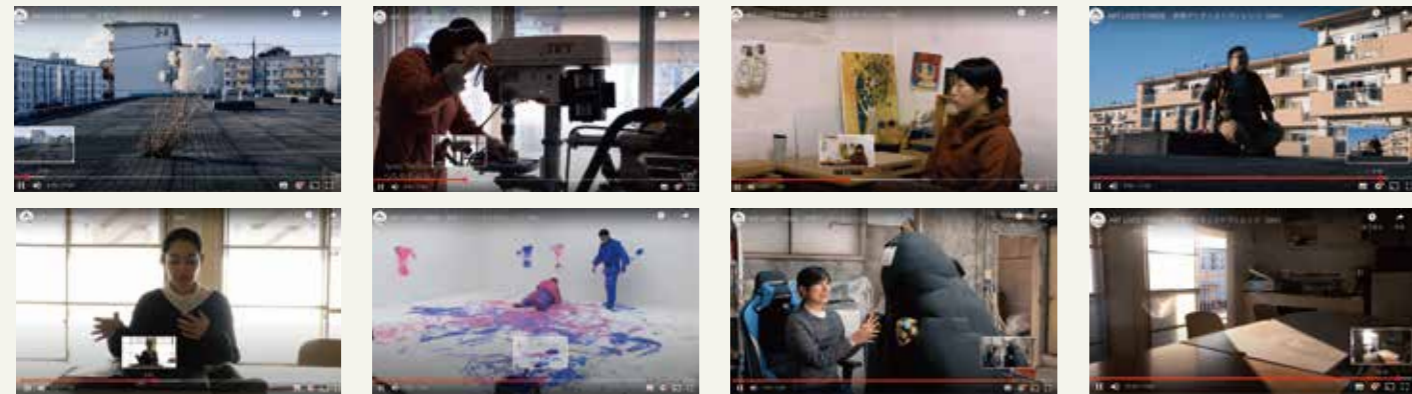


井野団地内のショッピングセンター1棟を
改修した共同アトリエ

井野アーティストヴィレッジ (IAV)

Ino Artists Village

絵画 現代美術 木工 映像 彫刻 壁画 共同スタジオ



(撮影・編集:伊阪 柊)

IAVコーディネーター 飯野哲心:

元々IAVはこの団地のショッピングセンターだったんですね。お店が
少なくなってシャッター通りみたいになっちゃったところを、東京藝術
大学の故・渡辺好明先生がプロジェクトとして2007年の末くらいにUR
さんと藝大と取手市の事業として立ち上げた共同スタジオです。

団地の方の生活に近いっていうのは他のスタジオにはない部分だと思
います。団地の方が制作中にちょっと覗きにきたりとか、オープンスタ
ジオの時にも人がいっぱい遊びに来てくれるんですね、そういうのを見
ると、思ってるよりアートって身近な気がするがあります。

去年のオープンスタジオで一緒に呑んでいた団地の方に話を聞いた
ら、「俺も作品作ってるんだよ」って。こんだけ団地で人がいれば趣味
とかで物を作っている人は結構居るはずなので、集めて団地アンデバ
ンダン展やってみたいです。

(インタビューに登場するメンバー: つちや あゆみ、オオシオヒロコ、倉敷 安耶、
懸谷 直弓、飯野 哲心)

動画と全文はこちら
↓

取手の芸術家のインタビュー「のぞき読み」、いかがでしたか?

WEBをご覧いただくと、ここで紹介した芸術家のほかにも、多様なジャンルで活動
する多くの芸術家がいることを知っていただけたと思います。ART LIVES TORIDEの
「アーティスト一覧」、それぞれの得意なことからアーティストを検索することもできます。

取手や近隣に暮らして活動する芸術家、取手で経験を経て日本のみならず世界各地で
制作活動を続ける芸術家。取手はたくさんの芸術家に関わってきたまちです。

これからも ART LIVES TORIDE では、取手で芸術活動を行う芸術家、また芸術家と
まちがつながって活動している事例を紹介していきます。

ART LIVES TORIDE

ここで芸術が生まれる。



WEBサイト
<https://artlives toride.com/>



Instagram
<https://www.instagram.com/artlives toride/>

主催:取手市文化芸術課
企画・コーディネート:特定非営利活動法人 取手アート
プロジェクトオフィス
※本事業は取手市新型コロナウイルス感染症拡大への緊急対策「アート
創作拠点オンライン公開事業」により運営されています(令和2年度~)。



アートを取り入れた事業をつくる 企業・団体募集中

壁画、絵画、彫刻、ロゴマークやポスター、プロ
ダクトのデザイン、ワークショップやレクチャーなど。
新しいことを始めるとき、アーティストの視点
や表現が力になることがあります。

紹介しているアーティストと、新しい考え方を取り
入れたい事業やプロジェクトをマッチングするの
も私たちの役割のひとつ。アーティストとともに新
たなことに挑戦したい方々を募集しています。
まずはお気軽に、お問い合わせください。



相談にのります!

CONTACTはこちらから →



ART LIVES TORIDE

ここで芸術が生まれる。

取手の芸術家のインタビュー のぞき読み



50組超の芸術家の活動拠点公開中!

<https://artlives toride.com/>



アトリエの風景と、 芸術家が創作活動に向ける言葉の数々。

ART LIVES TORIDE（アートルाइヴストリデ）ウェブサイトでは、多様なジャンルでさまざまな活動を行う芸術家を動画と写真でご紹介しています！芸術家がそれぞれの素材やテーマと向き合って生み出す創作活動と活動拠点の様子が集まっています。

映画とお酒を傍らに、
次の一手を描き重ねる。

海老原 靖

Yasushi EBIHARA

絵画



(撮影:石引 卓)

ほかの道に進みたいと思ったことは1回もないかな。うちはずっと取手で土建屋をやっているから、絵をやってないとそっちに進まないといけなくなっちゃうし。絵を描いて暮らしたいと思った。ほかに行きたくなかったってか。絵を描くのはなにが楽しかったんだろう。色もそうだし、タッチもそうだし。なにをやってもいい場所だった。規制がないから楽しかったよね。日々自分がうまくなっているのもわかるし。だからとにかく、たくさん描きたかった。



全文はこちら

宇宙から生まれ、そこに還る。
作品を通じて生と死を手繰る。

大垣 美穂子

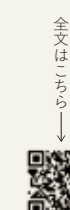
Mihoko OGAKI

現代美術 彫刻



(撮影:石引 卓)

人間が歳を重ねて老体になっていく。それって宇宙の動きと同じだと思っていて。その老体をかたどったものにいっぱい穴を開けて、光が中から投影されるようになっています。穴は感情の粒。歳を重ねるほど、感情がたくさん溢れているわけじゃないですか。それが宇宙をつくるというのを表現しています。人間の生命とか、生きているものは宇宙から生まれて、死んだ後も宇宙に還るっていう考え方を、作品を通じて感じるようになりました。私の人生、手で作業することで作品から学ぶことがすごく多いんです。



全文はこちら

変化のもと好奇心。

島田 忠幸

Tadayuki SHIMADA

彫刻 ワークショップ(子ども)



(撮影:水野 浩)

やってる人が少ないってことは、作家としては魅力だよな。溶接棒の使い方ひとつにしても、ちゃんと勉強しないときれいにできないわけだ。アルミを触っていくうちに、知らなかったことがたくさんわかるんだよね。そういうかたちで、技法にも魅了されてつくってるよね。彫刻っていうのはね、迷っちゃいけないの。最初にこうつくると思ったら、傾いてもつくっちゃう。ああでもないこうでもないって迷うと、ろくなことがないから。がーっとつくっちゃう。



全文はこちら

作曲家が生きていた時代背景を
知り、楽譜を読み解き奏でる。

オブレヒト音楽院 武澤 秀平

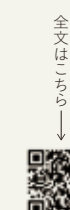
conservatorium obrecht/
Shuhei TAKEZAWA

音楽(演奏) 教室



(撮影:石引 卓)

たとえば弓が違えば、出せる音のキャラクターが違ってきます。ヴィオラ・ダ・ガンバはもとより、バロック時代や古典時代の弓のレプリカで演奏・研究しているうちに、一般的な演奏家よりも持っている楽器や弓の数が増えてしまって。研究材料だから仕方がないと、自分に言い聞かせています。作曲者が生きていた時代のスタイルで演奏することは特別なことではなく、基本中の基本だと思っています。



全文はこちら

やさしい眼差しで
人を見つめ、描く。

横川 奈月

Natsuki YOKOKAWA

絵画 現代美術 絵巻 文学 写真 企画
ワークショップ(子ども) ワークショップ(大人)
メディアアート ファッション インスタレーション



(撮影:中川 陽介)

つくっている作品を、なんだか怖いって言われることがあります。でも、私のなかでは現実しか描いていないというか。文章も絵も映像も、ほとんどが現実の比喩なんです。母親を描こうとしたら写真を見てそのまま描けばいいのかもしれないんですけど、自分の身体と頭のフィルターを通したいという気持ちがあって。そうすることで、作品に物語が発生するんですよね。私の視点と鑑賞者の視点が互いに交わって、双方向性が出て初めて、現実が見えてくるものだと思っているんです。



全文はこちら

土を触っていると、自分が
落ち着くのがわかっている。

神保 惇

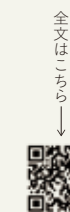
Jun JINBO

美術 陶芸 現代美術 彫刻 工芸



(撮影:西中 拓史)

陶芸をやりたいというよりは、やっていたほうが精神が安定するからやってるというだけで。今も、これを仕事だ!とか、これで生きていくんだ!とやって腹をくっつけたってわけじゃないんですけどね。つくってるほうが幸せになれるっていうのは、俺の場合、明らかだから。それでいいのかなって。つくったほうが楽だからつくってっていう感覚。



全文はこちら